

横浜市教育委員会 定例会会議録

- 1 日 時 平成 23 年 11 月 8 日（火）午前 10 時 00 分
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席委員 今田委員長 小濱委員 野木委員
中里委員 奥山委員 山田委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

平成 23 年 11 月 8 日 (火) 午前 10 時 00 分

- 1 会議録の承認
- 2 教育長一般報告・その他報告事項
- 3 審議案件
教委第 59 号議案 教職員の人事について
- 4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

～傍聴人入室～

今田委員長

おはようございます。ただいまから教育委員会定例会を開催いたします。

初めに、会議録の承認を行います。10月25日の教育委員会臨時会の会議録署名者は小濱委員と中里委員です。会議録につきましては、すでにお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

今田委員長

それでは、承認いたします。なお、字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

では議事日程に従い、教育長から一般報告をお願いします。

山田教育長

【教育長一般報告】

1 市会関係

- 10/28 本会議（第4日）
決算議決

まず、市会の関係でございますけれども、先月10月28日、本会議第4日がございまして、昨年度の決算の議決が行われたところでございます。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

- 10/26 横浜市災害対策本部 放射線対策部会議

市教委の関係は、主な会議として、10月26日に横浜市災害対策本部の放射線対策部会が開かれました。幾つか議論されたことを紹介いたしますと、これまでマイクロスポットや、空気中の放射線量を測定してきましたが、本市の基準が毎時0.59マイクロシーベルトということで行っていたわけですが、今般、環境省から毎時の数値が示されてまして、それを受けて、地上50センチもしくは1メートルのところでは0.23マイクロシーベルト毎時にする、ただし、マイクロスポット等の地上1センチのところでは測る部分については、これまでどおり0.59マイクロシーベルトとする、ということで意思統一をされました。

二点目は先般、東京都で、被災地から、産業廃棄物の受入れ等を行っていましたが、現在、同じく環境省から、その受入れ方について、各自治体へ調査がありまして、本市の場合は、資源循環局が中心になってその回答をまとめているところでございます。

三点目として教育委員会で現在、翌日に使う給食の食材を、前日どちらか1校分をまとめて全部検査をしていますが、その中で、乾シイタケで350ベクレルという数字が出て、暫定規制値は500ベクレルですので規制値以内だったのですが、一旦使用を取りやめました。産地の調査をしたところ、全国にわたって21府県のものを詰め合わせて袋詰めしておりましたので、産地の特定には至りませんでした。特定できなかったものですから、当分の間、乾シイタケについては、使用を控えています。先日、舞岡公園でも乾シイタケの問題も出ましたので、しば

らくは少し様子を見ようと放射線対策部で報告して、小学校の給食だけではなくて、保育園等についても、準じる扱いがされているところでございます。以上でございます。

今田委員長 教育長の報告が終了しましたが、ご質問等はございますか。

小濱委員 今、災害廃棄物の受入れ調査についての話がございましたけど、瓦れきの処理の基準について、「環境庁から出された基準があいまいだ」と、各自治体から批判が出ていたという新聞記事を読みましたが、今回の環境庁の指示は、前の時と同じものでしょうか。

山田教育長 細かいことはわかりませんが、以前、被災直後に瓦れきを受け入れると表明した自治体はかなりあったと思います。ただ福島の第一原発の事故があつてから受入れを表明するところが激減しているということもあつて、改めて環境省で、各自治体に受入れ方の調査をしてるというところでございます。

具体的にどのぐらいの基準値であるのかは私も詳しくは分からないのですが、本市の資源循環局が考え方をまとめて、回答しているのだと思います。

奥山委員 放射線の測定器を市立の小中高に1台ずつ配布するという件は、予算が通ったけれど、購入時期が随分遅れそうなお話も聞いているのですが、その見込みはいかがでしょうか。

山田教育長 今の見込みですと、早くて年明けの1月になると思います。教育委員会では、早い段階で全校に入れることを表明したのですが、例えば区役所などでも購入する予定があるようですので、それぞれの購入予定の部署で、納入時期が少しずつ違ふと思います。教育委員会の場合は500校ぐらいあり、数が多いものですから、納品は恐らく年明けになるだろうと思っています。

今田委員長 よろしいですか。それではご質問等がなければ、議事日程に従い、審議案件に移ります。まず会議の非公開についてお諮りします。教育委員会第59号議案、教職員の人事については、人事案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員 <了 承>

今田委員長 それでは、教育委員会第59号議案は非公開といたします。審議に入る前に事務局に確認ですが、何か報告事項はありますか。

重内総務課長 11月7日、個人1名から教科書採択に関する要望書が提出されました。この要望書につきましては、事務局で調整の上、次回以降にお諮りしたいと思います。

また受理番号103、160から177、179から193、195、196、198から200、202から254、256から276の請願書等113件につきましては、教育長専決にて回答いたしましたことをご報告いたします。

次回の教育委員会臨時会については、11月22日火曜日の午前10時から開催いたしますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

今田委員長 皆さん、よろしいでしょうか。それでは、次回の教育委員会臨時会は、11月22日火曜日の午前10時から開催することとします。

その他、委員の皆様から、何かございますか。

特にないようでしたら、私からアイ・カレッジの件について伺います。合宿があったと伺いましたが、現在までの状況はいかがでしょう。

柳下次長

「アイ・カレッジ」は10月15日に入塾式を行い、その午後に第1回目の講義がございました。入塾生は91名です。

翌週の10月22日の土曜日には、横浜市歴史博物館で講義を行ない、そして宿泊集中講座の合宿を、10月29日、30日に行いました。

合宿の場所は、南伊豆にございます横浜市少年自然の家南伊豆臨海学園に行ってきました。当日は晴天に恵まれ、海でのカッター訓練やカヤック体験など、事故もなく無事に終わりよかったですと思います。

塾生の参加人数は、資格試験やあるいは会社等の関係などで都合がつかない方を除いた77名が参加し、男性は28名、女性は49名でした。

この宿泊集中講座は、学校行事である宿泊体験はどのようなものなのかを体験させ、指導主事が教師役になり、教師としての役割は何か、どのような視点で、どのようなことに気をつけて子ども達に実践するのかを学び、また逆に子どもの立場になって、自分なりに宿泊体験をどのように感じとるのかを学ぶほか、集団生活でより良い人間関係をつくって、コミュニケーション能力を高めていくという目的を持って実施しました。最初はぎこちない面もありましたが、この宿泊集中講座を通じて、塾生間や指導主事たちとのコミュニケーションも図れたのではないかと思います。

行き帰りも同じ休憩場所で昼食をとりましたが、帰りの昼食では班別のグループで一緒になって食事をするという状況が見られ、行きとは違い、大変和やかな雰囲気になっていました。先週11月5日の土曜日にも講義の様子を見にいきましたが、学ぶ姿勢もよくて、休み時間などにも塾生同士がコミュニケーションを図れている姿を見て、この宿泊合宿が大きな成果を上げていると思っています。

今田委員長

指導者の先生は、事務局の指導主事の方が何人か行かれるのでしょうか。

柳下次長

指導主事が6名と、課長と私、事務局が1名で行ってきました。教師塾の指導教官である退職校長は、サービスの規定がございまして、宿泊は行かれないということで、合宿には参加しませんでした。

今田委員長

初めの部分が大事で、その時にいろいろ心の扉を開いていくことも大切だと思いますので、日ごろ指導する先生も合宿に参加できるような仕組みにできると思います。

山田教育長

合宿は、見ず知らずの初めて会った人が100人近くの集団を構成していて、特に今回は小学校だけではなくて、中・高・特別支援学校も入れています。今までの様に小学校の先生になる人だけではないものですから、アイスブレイクの役割がありました。これからが本番だと思っています。

今田委員長

もう一点、南高等学校附属の中学について、募集が160人の定員の中で、かなりの人たちが説明会にもいらしていただいています。今後、期待がいろいろある中で、中学校も高校も力をあわせて、両方が意識を共有して進めて行かなくてはならないと思いますが、準備の状況はいかがでしょう。

高橋指導部担当部長 南高附属中学では開設準備を進めてございますが、来年度については附属中学校はまだ1学年、160人、4クラスですので、教員の規模が10名前後ということになります。現在、職に就いております教員の方でなるべくいい人材を探していると考えています。また年々人数が増えてまいりますので、今後、高校との連携に力を入れながら人材を集めて、意識も高めていこうという予定でいるところでございます。

今田委員長 サイエンスフロンティア高校が開校した時には、まさしくゼロから出発したわけですが、今度の附属中学校は、高校があってそこに附属ができる形の中高一貫ということで、高校の先生方の意識も、よき伝統を大事にしながら、新しい学校ができるという意識の共有を議論しながら進めていくために、高橋部長のセクションが、多少リードを取らないと難しいと思います。

高橋指導部担当部長 高校側としては、3年後に附属中学校の子どもたちが上がってきますので、そこから大きな変化がもたらされるという意識なのですが、それでは遅いので、3年後を見越して今から連携を考えていかななくてはならないと、日々、働きかけをしているところです。

小濱委員 中高一貫になった場合に、高校の先生で残留する先生もいらっしゃいますか。

高橋指導部担当部長 併設型の中高一貫校にいたしましたので、中学校は県費の教職員、高校は市費の教職員ということになり、この状態はずっと続いていきますので、それでありながらうまく連携できる体制を作らなくてはいけないと思っています。

今田委員長 よろしいですか。それでは他にご発言がなければ、本日の審議案件は非公開案件のみですので、傍聴の方はご退席願います。また、関係部長以外の方もご退席ください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

<削除>

今田委員長 これで、本日の教育委員会定例会を閉会といたします。

[閉会時刻：午前10時35分]